



妙高市立妙高高原北小学校 10月号

学校だより

令和2年10月1日

「勝ちたい」ではなく「負けたくない」

校長 岡田 和則

10月を迎え、これで4月から数えて年度の半分を終えました。それぞれの学年も折り返し地点、特に6年生は小学校生活も残すところ半年、卒業を見据えながらの学校生活を進めているところです。青空こどもまつりや2泊3日の体験学習に向け、準備に余念がありません。

さて9月の全校朝会で、この8月29日に、およそ1年7か月ぶりに水泳のレースに復帰した池江璃花子さんの話をしました。開催されるはずだった東京オリンピックの金メダル候補として大いに期待されていた彼女が、白血病の病魔に襲われたのは昨年2月のことでした。抗がん剤の治療で髪が抜け、吐き気と戦いながらの闘病生活は10か月以上に及びました。そして、コロナ禍のもとでしたが今年の3月から練習を再開、ようやく大会に出場することができたのです。10月に行われる日本学生選手権の個人参加標準記録を突破し、組1位でゴールすることができました。レース後にプールサイドで仲間と声を掛け合った時に涙した姿が非常に印象的で心に残り、子供たちに話をすることにしました。

「この写真の人を知っていますか？ 水泳の池江選手ですね。白血病という血液のがんにかかり、ようやく回復して、この夏の大会に出場することができました。さて、そのレースに彼女はいったいどのような気持ちで挑んだのでしょうか。」写真を掲示してからそう問いかけ、「勝ちたい」というカードを黒板に貼りました。

「みなさんも、競争やレース、何かに挑戦するなどの時、それは試合ですから、優勝したい、1位になりたい、勝ちたいと思って競技しますね。でも、この大会で池江璃花子さんは、勝ちたいと思って参加したのではないそうです。いったいどんな気持ちで臨んだと思いますか？」
「どんな気持ちだろう・・・」子供たちはじっと考えます。

「彼女は、『勝ちたい』という気持ちより『負けたくない』という気持ちで臨んだというのです。（『負けたくない』を掲示し、）彼女が負けたくないと思ったのは、何だと思いますか？」

「相手に負けたくないだと思います。」「病気にだと思えます。」「弱い気持ちです。」「・・・」

「そうだね。いろいろと負けたくないものがあつたんだろうね。強い気持ちがあつたからこそ辛いことも乗り越え、負けずに、大会に再び出場することができたんだね。」

「勝ちたい」と思う時、そこにはライバルがいて、勝った瞬間は喜びが爆発するでしょう。一方「負けたくない」は、相手というより自分に向けてのメッセージに聞こえます。勝敗にこだわるのではなく、モチベーションを持ち続けるための気持ちの在り様を表しているように思えます。長く苦しい闘病生活を余儀なくされた病気はもちろん、くじけそうになる自分を力付けるための、池江選手なりの決意を表した言葉だったのではないのでしょうか。

勝った後の嬉し涙ではなく、様々に闘い続け「負けなかった自分」に感極まったレース後の池江選手の涙の意味、このような時代だからこそ、子供たちに考えさせ、挑み続ける気持ちを高めていきたいと思えます。「負けるな、がんばれ、北小の子！」

9月の各学年の活動から



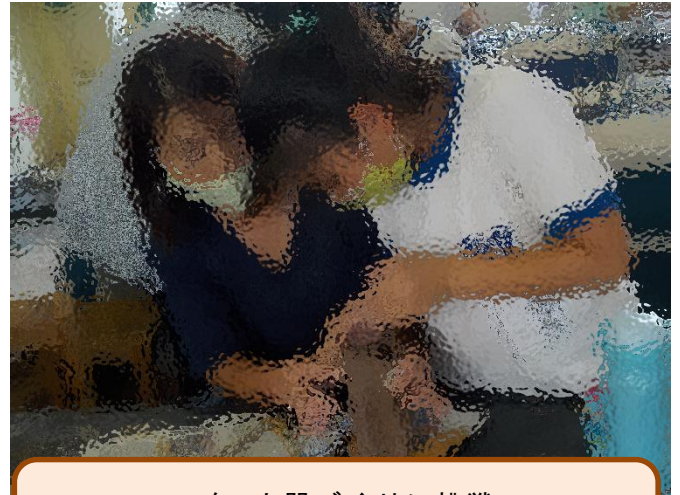
1年：朝顔のリースづくり
「うまくまるにできるかな？」



2年：育てた野菜を味わおう
「お願い！真っ赤な美味しいスイカ」



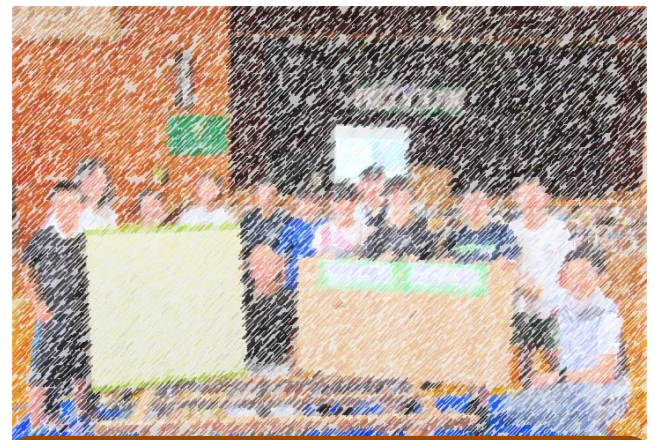
3年：温泉のお宝を調べよう
「温泉は歩道の下を通っているのか…」



4年：土器づくりに挑戦
「すてきな花びんになるといいね！」



5年：かかしを立てたよ
「すずめさん、お米を食べないで！」



6年：畳職人さんに学ぶ
「すばらしい職人の技にびっくり！」

<下校時刻変更のお知らせ> 10月16日(金) 1~4年 13:20 バス 13:30 5~6年 15:00 前日準備
10月21日(水) 1.2年 13:20 バス 13:30 就学児検診